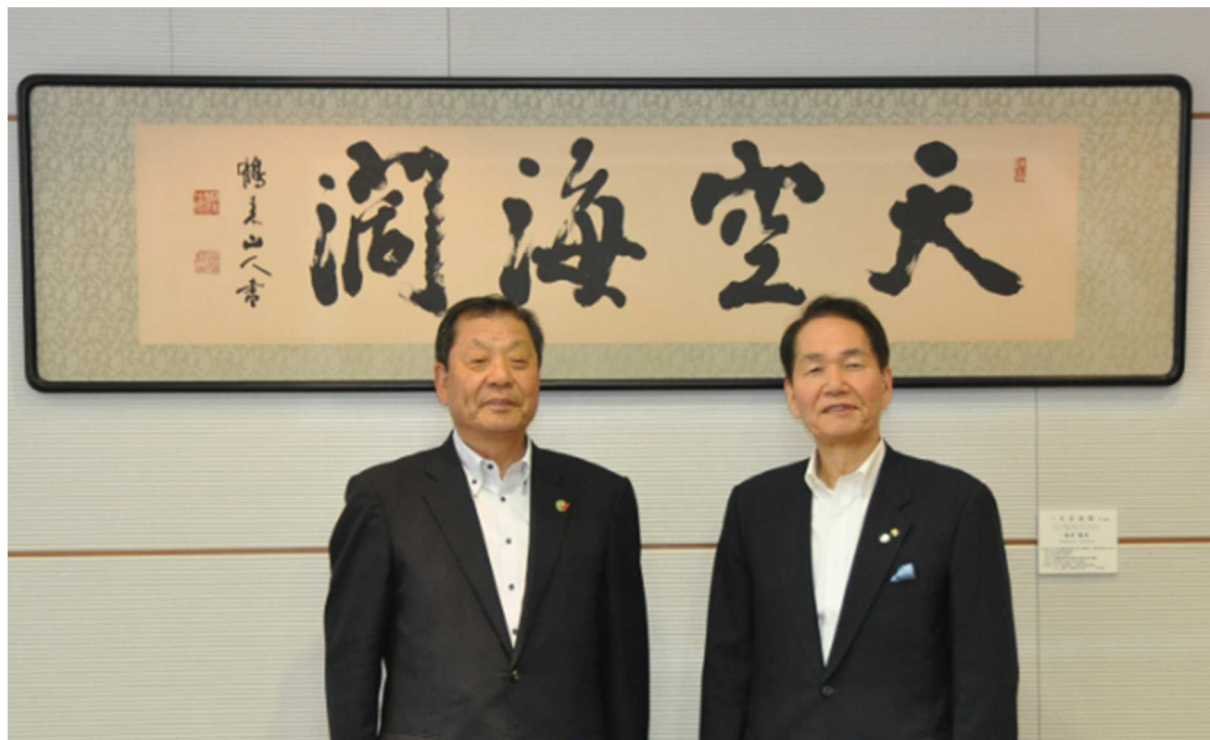


# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第100号(2015. 7. 1)  
事務局川西地区自主防災会

祝100号！記念対談



かがわ自主ぼう連絡協議会が平成19年3月に設立されてから、会報誌「防災・減災の輪」を毎月発刊して、この7月号で100号を迎えます。100号発刊を記念して香川県知事浜田恵造氏とかがわ自主ぼう連絡協議会長岩崎正朔氏が対談を行いました。

## 【知事】

100号発刊おめでとうございます。100号となると、8年以上という長い月日がかかっていると思いますが、これまで本当にお疲れ様でした。

## 【会長】

平成19年3月にかがわ自主ぼうを設立しました。振り返ってみますと、最初の1号は、当時の県防災局の細松局長に原稿をお願いしておりました。また、5号では東

京大学名誉教授の月尾嘉男先生に原稿をお願いしております。いま考えますと、無理を言ったなと思います。

### 【知事】

この8年間の活動が評価され、ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2015最優秀レジリエンス賞を受賞されましたこと、改めてお喜び申し上げます。

これまで御尽力されてきた、県内自主防災組織、約3,000団体を対象としたフォローアップ事業等の展開が高く評価され、全国の方に、かがわ自主ぼう連絡協議会の存在を知っていただく機会となり、私も誇らしく思います。受賞の感想などお聞かせ願いますか。

「防災・減災の輪」創刊号



### 【会長】

国連防災世界会議という非常に大きな大会に併せ、初めて、ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）が設けられ、そのなかで最優秀レジリエンス賞を受賞できたことは、かがわ自主ぼうとして、とても栄誉なことであり、ここまで支えていただいた香川県並びに県内各地の自主防災会の皆さんにお礼を申し上げたいと思います。

表彰式会場ならびに仙台の街は多くの外国の人達にあふれ、さすが、世界レベルの大会が開催となると、街の雰囲気まで変えるほどのエネルギーが感じました。

また、表彰式の会場には、関係大臣のほか、首相夫人の昭恵様もプレゼンターとして御出席され、高揚感に包まれた式典となりました。

500人定員の会場に800人ほどが会場入りしており、受賞チームも十分に座れない状況で、通路に座っていた各国の関係者もいたようでした。非常に思い出深い大会でした。

### 【知事】

岩崎会長が平成19年3月にかがわ自主ぼう連絡協議会を設立されてから、足かけ8年余りの時が経ち、会報誌である「防災・減災の輪」が今年7月に100号を迎えますこと、改めて誠におめでとうございます。

8年間の活動のはじまりは、わずか18名の会員からであったとお聞きしています。ここまでの、思い出や苦勞などを聞かせてもらえますか。

## 【会長】

会報を作り始めた時は、ここまで続くとは自分自身も思っていませんでした。

途中、苦勞したこともありましたが、当時の勤務先のメンバーや、現在、編集のお手伝いしていただいているe-とぴあ・かがわの皆さんに支えていただき、うまく乗り越えてくることができたのかなと思います。



最近では、小学校の統廃合が進み、廃校になる小学校のお別れセレモニーとしての在校児童全員と地域の皆さんでの防災訓練に呼ばれました。地域の皆さんは寂しそうにしているのですが、子どもたちは「これから頑張っていくんだ！」と、元気な振る舞いで、地域の新たな展望を感じもしました。

三豊の小学校には5年ほど訪問しています。1年生の頃から顔なじみになった子どもたちから「防災のおっちゃん came。」と言われます。さらに、最初は校長先生から外でうどんでも食べませんかと言われていたのですが、そのうちに、ランチルームで子供たちと一緒に昼食を食べませんかと申し出があり、6年生の皆さんが配膳の用意をしてくれ、後片付けもお手伝いしてくれ、至れり尽くせりであり、とにかく子どもたちと同じものをいただいたことに感動しました。



まんのう町では、超高齢化の50世帯ぐらいの地域に毎年訓練に出かけています。地域の人達からしたら私たちは子どものような存在らしく、1年ぶりの再会を喜んでいただき、訓練終了後、団子汁の手料理を振る舞ってくださり、また来年もよろしくと温かく言ってくれます。

かがわ自主ぼうの活動をしているうちに多くの人との出会いを経験し、またいろいろな人に支えてもらっていると感じています。

原稿が途切れそうになると、当時の県防災局の指導監や香川大学の長谷川先生、さらには高松気象台の皆さんにもずいぶんお世話になりました。



毎月休まずに「防災・減災の輪」を発行できているのは、地元のコミュニティセンターの皆さんのおかげであり、さらには、この4～5年、毎月「防災・減災の輪」を発刊する度に御礼状を送ってくれる愛読者の支えがあるからです。この場をお借りして、感謝を申し上げたいと思います。



地元のコミュニティセンター

#### 【知事】

さて、南海トラフを震源とする地震が今後30年以内に発生する確率は70%程度と非常に高い想定となっております。その中で、最大クラスの地震が起こった場合、県内の死者数は、6,200人にもなるとされており、防災・減災対策により被害の軽減を図ることは喫緊の課題となっております。自分たちの地域は自分たちで守ることをめざす自主防災組織が果たす役割は今後も大きくなっていくと考えております。岩崎会長が考える自主防災組織の果たす役割や活動を教えてください。

#### 【会長】

この4～5年間「かがわ自主ぼう」も積極的に県内を走りまわって自主防災力の強化を図ってきました。特に、昨年度から「防災何でも相談コーナー」を開設し、さぬき市で初めて実施したところ反響がすこぶる良くて、その地域の皆さんとは継続的な取組みを築くこととなっております。

さぬき市では、「海拔2メートルのところに住んでいるが、近くに避難所がない、また避難所まで時間がかかる。」と相談を受け、その後、近隣にある銀行との交渉の橋渡しをして、施設を避難所として使わせてもらえるということにつながりました。他にも、廃校を避難所や備蓄物資置き場として再利用できないか検討したり、適切な避難路や一時避難所発見へのまち歩き活動を行ったりなど、地域ぐるみの防災訓練へとつながっています。



さぬき市何でも相談コーナー



「防災何でも相談コーナー」から  
避難路の確認へつながった

また、「防災何でも相談コーナー」からいろいろ波及して、良い方向に進んでいます。実は、先日も訓練に行ったのですが、今までにないところからボールが飛んでくるようになっています。

今年度は、東かがわ市と多度津町で開催を予定しています。この「防災何でも相談コーナー」を切り口に自主防災組織の活動を広げていけたらと思います。

また、三豊エリアでは、もう5年位になりますが、最初は上高野と我々の川西で年に1、2回交流会をしていた輪が広がり、豊中・仁尾・詫間・高瀬、さらには学校の先生も入った防災交流会を年に1～2回開催しています。

このように、どんどん輪を広げて、交流を深めて、いろいろな面でノウハウなどを蓄えて、連携を深めて、南海トラフ地震に備えていきたいと思えます。

静かな池の水に石を投げ、小さなさざ波が広がっていくように、少しずつではありますが、防災の輪が広がっているのを感じ取れますので、県内全域の自主防災組織へ輪が広がるような活動展開を図りたいと考えております。

#### 【知事】

県民の方々の生命、身体、財産を守るためには、県民一人ひとりの防災意識の向上が重要だと思えます。そのための施策の一つとして、県では2年前から、シェイクアウト訓練を実施しております。昨年の訓練では、47団体3万人余りの自主防災組織の皆さまに御協力いただきました。今年も11月5日に予定しておりますので、さらなる御参加をお願いします。

これまで2年間にわたって、実際にシェイクアウトに御参加されて、いかがでしたか。

#### 【会長】

私は神社のお世話もしてまして、一昨年は訓練日と神社の研修日が重なっていました。シェイクアウトの開始時間帯はバス4台にて京都へ移動中でしたが、バスガイドさんに「シェイクアウト！」と言うようお願いしており、車中でのシェイクアウトを行いました。元気よくやりすぎて前の座席に頭をぶつけた人もいたと聞きました。この訓練は、地震が起きた際の基本的な安全行動を行うので、どこでもできますね。

昨年度は、地元の大規模商業施設を巻き込んで、来店中のお客さんと一緒にさせていただきました。店長に店内放送で「シェイクアウト！」と放送してもらい、お客さんには買い物籠をかぶり床に伏せてもらいました。

地震発生時の初期動作として大変有意義な訓練でかつ容易に実施できますので、さらに多くの自主防災組織が参加するよう働きかけをしたいと思えます。そして、地域の他の団体へとつなげていくためにも、自主防災組織が要にならないといけないと思えます。



店内での訓練

#### 【知事】

ありがとうございます。

県では、今年3月に「南海トラフ地震に関するDVD」を作成し、各地域へ出向き

最大クラスの南海トラフ地震が発生した際の揺れや津波の被害、さらにはそれに備えるための防災・減災対策について紹介し、県民の方々の防災意識の向上に努めています。実際に御覧いただき、どう思われましたか。

### 【会長】

シミュレーションを多く活用されており、理解しやすく、関心の少ない人でもよく分かるのではないかと思います。

香川大学危機管理研究センター長の白木先生がおっしゃられていた、日常生活の中で「危機管理」を培わなければならないということは、特に共感しました。

さらに、香川大学の長谷川先生がおっしゃられていた、「2時間ぐらいかけて津波がくるから、ゆっくり逃げたらいいと皆さん思っているかもしれないが、堤防が決壊して浸水して動けなくなるので、早く行動しないといけない。」というのは、まさしくそのとおりでないかと思います。

南海トラフ地震に関するDVD

南海トラフ地震に関するDVD

地震発生、そのとき...

～南海トラフ最大クラス地震（M9.0）による香川県内の被害シミュレーションと減災対策～

今後、30年以内に発生する確率が70%程度と予測されている南海トラフ地震。地震や津波を「正しく知り」、「正しく判断し」、「正しく行動する」ための、最大クラスの南海トラフ地震が発生した際の揺れや津波による被害などについて、県内5エリアに分けて、コンピューターグラフィックスを用いて解説しています。さらに、建物の耐震化、家具類の転倒防止対策など具体的な減災対策について紹介しています。

かがわ防災Webポータル

検索

また、DVD後半で、対策編が入っているのが非常にいいと思っています。やろうと頭では思っているけれど、なかなか実行されていない家具の固定化や耐震診断などを紹介していていいと思います。

5つのブロックに分けているのも各地域のイメージができていいと思いますね。例えば、東讃は東讃の被害のイメージができるわけです。これから「防災何でも相談コーナー」に行った際には、冒頭にDVDを上映して、地震・津波に対する理解度を高めてから、相談に入りたいと思います。

### 【知事】

ぜひ、DVDを広くご活用いただければと思います。



地震が起きたら、津波が来る前に堤防が決壊し、すぐに浸水する可能性があります。浸水予想だけ見ても、30分以内に浸水が30cmというのはピンとこないかもしれませんが30cm浸水したら足を取られて動けなくなります。そんな中で、津波が来て、二次災害となるのを防ぎたいと思います。そういったことを知ってもらいた



めに、DVDが役立ち、皆さんの防災意識を高めるために活用できればと思います。

ところで、岩崎会長は、自主防災組織の活動を通して、各地域の方々と直接触れ合うことも多いと思いますが、香川県民の防災意識についてどう感じていらっしゃいますか。

#### 【会長】

4、5年前に較べたら相対的には防災意識は上がってきていると感じています。ただ、若年層の方の防災意識は希薄ですね。自治会加入促進活動で若い主婦のお宅へ家庭訪問をした際に、「地震が起きたら実家に帰って食料品をもらってくるので心配ありません。」と言われ、「では御実家はどちらですか。」とお聞きしたら、「徳島です。」とのお返事でした。南海トラフ地震についての意識がまったく無いことに、唖然としました。

また、小豆島への訪問活動中のことですが、その地域は海から近く海拔も2m前後という状況でしたが、意見交換では、「しっかりしないと。」と考えている地域がある一方、自治会役員や地域消防関係者の皆さんに危機意識が無い地域もありました。その地域からは、国や県は大げさに言い過ぎるとの発言も出て、この地域全体にテコ入れする必要を痛感しました。過去、大体100年間隔で起きているのだから、再び地震は起きるだろうということが分かっていないのでしょうか。

意外と海に近い人の方が、内陸に住んでいる人に比べて危機意識が薄いところがあるのかなと感じることがあります。そのような地域には、もっと足を運び、DVDを使ったりして、香川県も津波の被害があることを説明しなければと思います。

#### 【知事】

普段海を見慣れている分、危機感が薄いのでしょうか。

#### 【会長】

そうですね。

東北で日和山公園（宮城県石巻市）から太平洋を見ましたが、あんなにおとなしいきれいな海が、怒り狂ったら東日本大震災の津波になるのかと思いました。

海が怖いことを忘れてるのが、一番怖いですね。



日和山公園からの景色

## リーダー研修会



## 【知事】

香川県では、今年の3月に、今年度からの3年間で取り組む防災・減災対策を取りまとめた「香川県南海トラフ地震・津波対策行動計画」を策定いたしました。ハード事業とソフト事業を組み合わせることで実施することとされていますが、ソフト事業には、自主防災組織のリーダー研修など、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆さまの御協力抜きにはできないものもあります。自主防災組織を引っ張る

るリーダーの重要性についての考えを教えてください。

## 【会長】

自主防災組織の活動は、決められたものではなくて自発的にしないといけないものです。そのため、リーダーの養成は大切なテーマです。

知識を多く吸収したとってリーダーが務まるわけではなく、泥臭く、面倒をよくみて、共に汗をかく、さぬき流に「ほっこ」になって取り組むリーダーの育成が大切です。それは「ほっこ」仲間を多く作っていくこと、あれこれと理屈を言う人材はリーダーになり得ないと思っています。

それぞれの地域には独特のリーダーがおられるため、そのリーダーの心意気をそがないように支援するように心がけています。積極的に地域の悩みなどを聞いていく場作りを時間の許す限り作っていきたくて考えています。

また、県が行っているリーダー研修では、私たちの実体験を伝えるようにしています。特に運営資金をどうやっていくかが重要です。無駄を整理したら、資機材を購入することができます。どんどんいい方法を情報提供してあげたいと考えています。



## 【知事】

自主防災組織の充実・強化が重要となる中、香川県内の自主防災組織の活動カバー率は着実に伸びており、昨年度の段階で、せとうち田園都市香川創造プランにおいて目標としていた80%を達成することとなりました。今後は、自主防災組織の活動内容の充実を進めていく必要があります。引き続き、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆さまの力をお借りできればと思います。今後の皆さまの抱負や展望を聞かせてください。



## 【会長】

私達の取組みに手ごたえを十分に感じ取っているところであります。

これまでは、防災訓練は秋に集中しており、田植えシーズンの6月に防災訓練をするなんて思いもしなかったが、今年は既に5回も訓練をお願いされています。かがわ自主ぼうは、非常に活動が広がってきていると感じているところです。

これからは、「防災何でも相談コーナー」を切り口に活動を広げていきたい。香川県全体をみて、活動が活発なところ、そうでないところと濃淡があるので、そういったところを整理して、活動の弱いところを重点的に取り組んでいきたい。また、自主防災組織の段階に合わせた支援をしていきたいと考えています。

かがわ自主ぼうとしてできるかぎりの要望にお応えし、県内隅々まで地域防災力の強化に努めていきたいと考えています。体調管理なども考慮しながら、すべてにわたって前向きに対応してまいりたいと思っております。

## 【知事】

本日は、貴重な御意見をありがとうございました。県としても、安心できる香川づくりのために、大規模災害から県民の生命、身体、財産を守ることができるよう、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆さま方をはじめとした自主防災組織からの御意見も参考にしながら、自主防災組織の充実・強化に努めていきたいと思っております。どうか御協力よろしく申し上げます。



最後になりますが、岩崎会長をはじめ、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆さまの、今後益々の御活躍を期待しています。

## 100号へ寄せてメッセージをいただきました！

かがわ自主ぼう連絡協議会会報「防災・減災の輪」100号の発行おめでとうございます。お祝い申し上げるとともに、長年の発行へのご努力に心から敬意を表します。いまや、香川県はわが国の防災活動の拠点と言えるでしょう。それは貴協議会が推進してきた防災情報の発信や他地域への防災活動支援などのたゆまぬ努力の成果だと思います。この活動の一翼を担う会報の発行には苦労も多かったことと思いますが、長年に渡り多くの情報を発信して防災の啓発に大きく貢献してきました。今後も一層の充実を図り、発展されることを期待しています。



東京農工大学名誉教授 福嶋 司

「防災・減災の輪」100号発刊記念にむけて

20年前の阪神・淡路大震災、そして東日本大震災。近い将来には南海トラフの巨大地震が予想されます。被害の軽減には、それぞれの地域で、過去の地震をよく知り、お互いの連携を深めながら、今後に備えることが大切です。かがわ自主ぼう連絡協議会は、岩崎会長を中心に、早くからこのテーマに取り組み、様々なアイデアを生かした活動は特に優れています。会報「防災・減災の輪」は100号を迎えますが、ますますの発展を期待しています。



国立研究開発法人産業技術総合研究所招聘研究員 寒川 旭

「防災・減災の輪」100号の発刊、おめでとうございます。岩崎様とは平成18年の香川防災啓発研修で初めてお会いしました。第一印象は全身からオーラのようなものが出ていて、そのパワーに圧倒されました。このオーラこそが今日まで地域を牽引し、多くの人の縁をつなぎ、行政もその気にさせる正体であったと思います。かがわ自主ぼう連絡協議会での先進的な取り組みが全国の多くの悩める地域への妙薬として広がればと感じる次第です。



山口大学大学院 理工学研究科 准教授 瀧本 浩一

「防災・減災の輪」100号発刊おめでとうございます。9年間にわたって発刊を継続されてこられたことに敬意を表します。私も平成21年9月発刊の第30号に「地域防災の新展開ー地域継続計画(DCP)の考え方ー」を寄稿させて頂きました。掲載後、全国の関係者から拝見しましたというメールを頂き、この会報が全国的に注目されていることを知り驚いたことを覚えています。200号発刊に向けて頑張ってください。



香川大学危機管理研究センター特任教授・センター長  
四国防災共同教育センター長 白木 渡

「防災・減災の輪」の創刊100号を祝して

「防災・減災の輪」が創刊されてから9年目に100号に達したこと、心からお祝い申し上げます。これは、かがわ自主ぼう連絡協議会の岩崎正朔会長の先見性とリーダーシップと共に執筆、編集、印刷、配布の支援に当たられた皆様のご協力の賜だと心から敬意を表します。防災・減災を地域や国の文化にまで高めなければ、その場限りの対策で終わってしまいます。香川県の防災・減災文化として「防災・減災の輪」が広がることを期待しています。



香川大学工学部教授・危機管理研究センター研究員 長谷川修一

事務局だより

平成27年7月

山あり谷ありの今日まででしたが、多くの皆さんに支えられ節目となる100号を迎え、記念の100号には、県知事浜田様にご公務のお忙しい中ご登場いただき感無量でございます。これからもっと多くの人達に御登場いただき200号に向け情報発信していきたいと思っております。これまで原稿を寄せていただいた皆様に紙面をお借りしてお礼申し上げます、誠にありがとうございました。